

KOBELCO

TrueBlue KOBELCO
Evolution
Creating value, building a future and
changing the world

人と地球の未来を考える
コベルコ建機グループ

社会環境報告書 2013

コベルコ建機株式会社
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社:〒141-8626 東京都品川区東五反田二丁目17番1号 ☎03-5789-2111
広島本社(広島事業所):〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号 ☎082-943-5321
大垣事業所:〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 ☎0584-89-3104

<http://www.kobelco-kenki.co.jp>

コベルコ建機株式会社

事業活動やCSR活動から生まれる新しい価値を社会に提供しつづける

グローバル市場でのプレゼンスの向上と事業体質の強化

2012年度までの中期経営計画は、グローバル化に向けた事業体質の強化と事業規模拡大への対応に主眼をおいた計画でした。その中で取り組んだ課題については製造・販売ともに、ほぼやりきれたと思っています。この3年間でグローバル市場における当社のプレゼンスが大きく向上した上、事業体質も確実に強化されたと思います。

特に最大のプロジェクトであった“五日市新工場への移転”と事業構造変革に向けた“グローバルエンジニアリングセンターの開設”は、滞りなく完遂できただけでなく、すでに成果を出しつつあり、今後当社のものづくり力と開発力、コスト競争力の強化に大きな力を発揮してくれるものと期待しています。

基本戦略を維持しながらさらなる強靱な事業基盤を構築する

建機ビジネスは基本的に景気循環型のビジネスで、現状は総じて世界的に景気回復局面にあること、さらには長期視点でも成長産業であるとの認識から、CNH Global N.V.社(CNH)とのグローバルアライアンス解消で事業環境が大きく変化した欧米ビジネスを除き、基本戦略の大きな見直しは必要ないと考えています。

ただし、中国市場の変調や欧州債務危機、東日本大震災などの大災害、円高急進といった大きな事業環境変化が今後も十分起こりうるという前提に立ち、中期基本方針として以下の3つを掲げ、真のグローバル企業を目指すとともに、持続的安定成長に向けた強靱な事業基盤を築きあげたいと考えています。

- ①いかなる事業環境変化にも追従できる強靱な事業体に変貌する
- ②欧米への事業再参入を遂行し、全世界でコベルコのブランド価値を最大化させる
- ③一定シェアを獲得できているエリアは収益重視の戦略をとり、収益最大化を図る

エリア別に強靱な流通基盤を整備。真のグローバル企業を目指す

CNHとのグローバルアライアンス解消で事業環境が大きく変化した欧米ビジネスに対しては、限られた経営資源の中でプライオリティを明確にして市場再参入を推進する計画です。

まず、地域別に見た投資優先順位は、ブランド・流通が既存で市場が活性化している南北米州が最優先。既存市場だが市場が停滞している中近東・欧州市場が第2優先、将来成長が見込めるものの、まだまだ市場が小さく、未知の部分が多いCIS・アフリカ市場はその後とを考えています。

各市場での流通基盤の構築を優先させ、当面、製品の供給は日本または既存のグループ海外拠点から行う計画で、失墜した市場シェアを早期に奪回し、真のグローバル企業を目指す所存です。

事業活動とCSR活動の両軸で差別化による価値を社会に提供する

近年、油圧ショベル市場での当社のプレゼンスは大きく向上しましたが、我われの位置付けはリーダーではなくチャレンジャーだとの認識です。経営方針にも掲げるように「規模と価格だけの競

争ではなく、質と価値創造を求め、「リーダー企業との差別化でコベルコ建機グループの存在意義を高める」というチャレンジャー企業としての戦略を貫くことが、このポジションでの持続的成長には極めて重要だと思っています。

私は、事業活動もCSR活動も「いかに社会に価値を提供できるか」が基本であり、企業の持続的成長には欠かせない要素だと考えています。低燃費、極低騒音、ハイブリッドといった差別化技術が市場で高く評価されていますが、今後もこうした技術開発を通じて社会に価値を提供し、さらには、CSR活動の中や事業活動を通じて、人とのつながりを大切にして生まれる新しい価値の創造にこだわり続けたいと考えています。人と環境にやさしい循環型社会の創出に向けた、コベルコらしい新たな価値提供に今後も期待いただきたいと思います。

最後になりますが2013年度から2015年度、コベルコ建機グループは次のスローガンで行動します。

True Blue KOBELCO Evolution
Creating value, building a future and
changing the world

「Blue」は、コベルコブランドの油圧ショベルのカラーを連想させます。誠実さや信頼を意味する「True Blue」で、「KOBELCO」の姿勢を表現しつつ、グローバルに進化・発展「Evolution」していくことを宣言するものです。サブタイトルの「価値をつくり、未来をつくり、世界を変えていく」にも思いを込め、この心意気でCSR活動・社会貢献にも努めてまいります。

コベルコ建機株式会社
代表取締役社長

河 田 純





コベルコ建機グループの経営とCSR

コベルコ建機グループは、日々の企業活動を通じて、社会に価値を提供し、価値が社会に受け入れられることで生まれる好循環により、社会とともに成長していくことを目指しています。

CONTENTS

- 01 トップメッセージ
- 03 コベルコ建機グループの経営とCSR
今後の経営方針 / CSR Message
コベルコ建機グループのCSR
- 05 これまでの活動実績と今後の展開
- 07 特集 豊かな森づくりへの取り組み
- 09 2012 企業活動・CSR活動ハイライト
- 11 環境保全活動報告
環境保全の取り組み / 環境数値
- 13 社会・地域活動報告
活動理念 / 継続的活動 / 国内・海外での活動
- 15 ステークホルダーとの関わり
関係企業との調和 / 職場づくり / 人づくり
- 17 コーポレートガバナンス / コンプライアンス
コベルコ建機グループの概要 / 編集後記

●報告書の対象に関して

【対象組織】 コベルコ建機株式会社および、グループ関連企業を対象としています。
【対象期間】 2012年4月1日～2013年3月31日
(一部2013年4月1日以降の情報を含む)
【報告書発行】 2013年5月

今後の経営方針

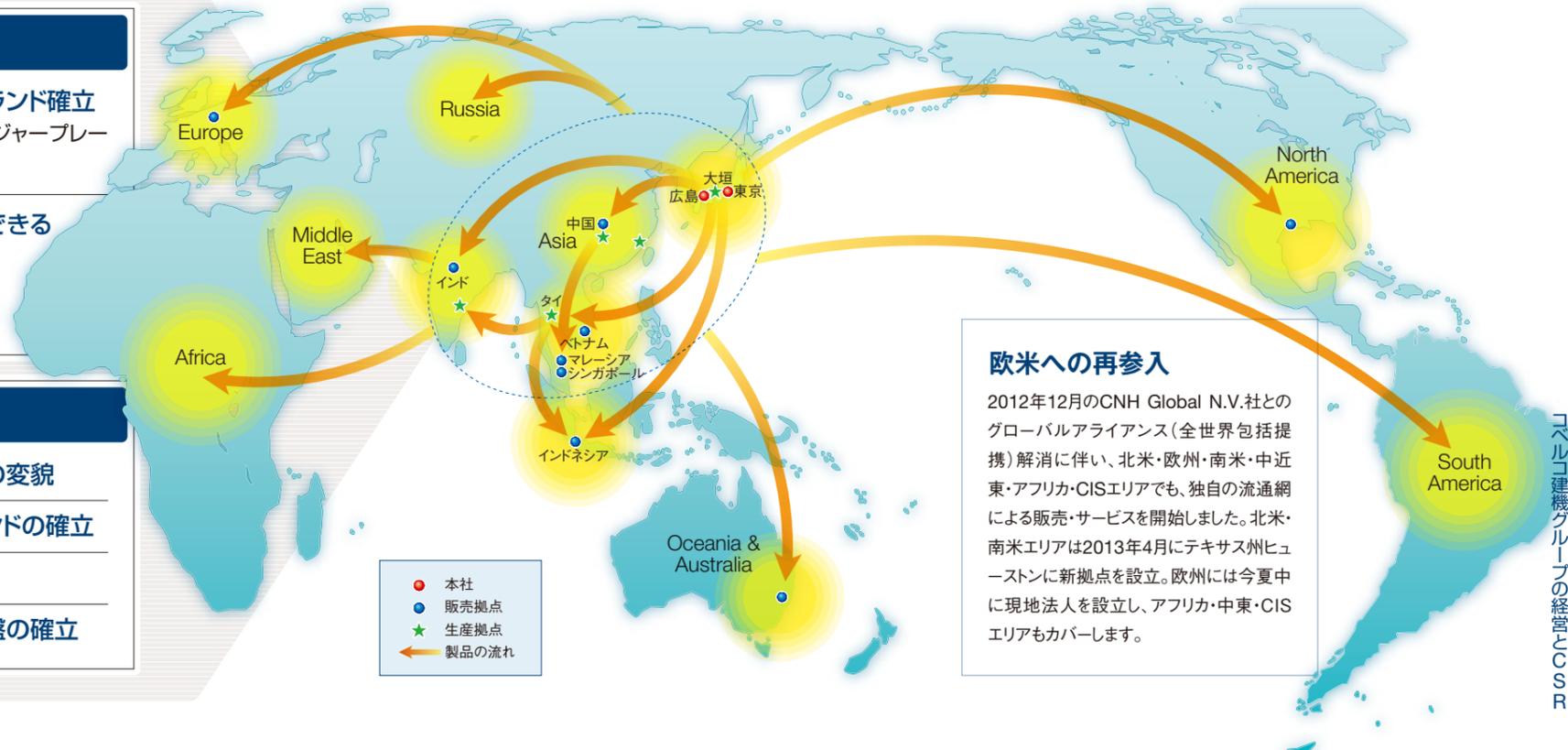
コベルコ建機グループは、欧米市場への再参入とコベルコブランドの市場浸透によるプレゼンス向上を目指し、新たに動き始めました。全世界でのグローバルブランドの確立と、強靱な事業体への進化を目指しています。

中期ビジョン

- ①全世界での強固なグローバルブランド確立
欧米への再参入を遂行しグローバルメジャープレイヤーの地位確保。
- ②いかなる事業環境変化にも追従できる
強靱な事業体へ変貌
グローバルエンジニアリングセンター(GEC)設立効果100%発揮。

中期基本戦略

- バランスの良い強靱な事業体への変貌
- 全世界で強固なグローバルブランドの確立
- ものづくりは技術の深堀へ転換
- 安定的収益を確保できる事業基盤の確立



欧米への再参入

2012年12月のCNH Global N.V.社とのグローバルアライアンス(全世界包括提携)解消に伴い、北米・欧州・南米・中近東・アフリカ・CISエリアでも、独自の流通網による販売・サービスを開始しました。北米・南米エリアは2013年4月にテキサス州ヒューストンに新拠点を設立。欧州には今夏中に現地法人を設立し、アフリカ・中東・CISエリアもカバーします。

コベルコ建機グループの経営とCSR

CSR Message

人と地球の未来を考える、コベルコ建機グループのCSRメッセージ

1 Message コベルコ建機グループは、これまで環境問題に取り組んだなかで培ったノウハウを活かし、私たちならではの地球環境保全を行っています。

2 Message コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考える」をコンセプトに、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めています。

3 Message コベルコ建機グループの社員は、より良い未来の実現に向け、共に泣き、笑い、励まし合いながら進んでいくパートナーであり、大切な仲間です。

コベルコ建機グループのCSR

コベルコ建機グループは、建設機械づくりの視点から、また企業としての立場から、地球と人にやさしい活動を続けています。CSR組織体制を整え、活動方針・活動ポリシーに従って、グループをあげてCSR活動に取り組んでいます。

▶ CSR活動方針

私たちは持続的成長の実現を通じて、人と環境にやさしい循環型社会の創出に取り組んでいます。また、コベルコ建機グループに脈々と流れる心情を受け継ぎ、CSR活動を通して社員一人ひとりがさらに磨かれ、成長するきっかけにしていきたいです。これらの活動は、次の3つの方針に基づいています。

- ①コベルコ建機グループは私たちならではの地球環境保全を行います。
- ②コベルコ建機グループは、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めます。
- ③コベルコ建機グループは、社員と共により良い未来の実現に向けて進んでいきます。

▶ CSR活動ポリシー

- 人道主義的でコベルコ建機グループの存在感を増すものであること。
- 身の丈に応じた活動であること。
- 事業を展開している地域での活動であること。

この3つのポリシーに従って、さまざまなCSR活動を進めています。活動内容においては、単に金銭的な寄付をするのではなく、身近な人々や、事業を展開させていただいている地域での、心が通じ合うような活動や支援を大切にしています。コベルコ建機グループの建設機械がいるそばで、コベルコ建機グループのプレゼンスを高めていける活動の一つひとつを行っていきたく思います。

これまでの活動実績と今後の展開

コベルコ建機グループは、社会のニーズに応え、役立つことを企業の使命と考えています。社会が抱える多くの課題に対し、事業活動・CSR活動の双方を通じて、問題解決に取り組んでいます。



取り組みテーマ

これまでの活動実績

今後の展開



地球温暖化
対策

圧倒的な低燃費で業界を先導! 20tクラスハイブリッドショベル・SK200Hが登場

8tクラスハイブリッドショベルSK80H-2に続き、20tクラスハイブリッドショベルSK200Hを2012年10月に発売開始しました。巡回制動時の運動エネルギーを電気に変え蓄電し、動力のアシストに利用することで燃料消費量を約16%削減(SK200-8と比較)。作業量・経済性・環境対応の全てを追求した機械です。コベルコ建機グループは2006年、世界初のハイブリッドショベルの実機を発表し、以来、ハイブリッド技術の先端を走ってきました。環境性能にいち早く注力し、低燃費・低炭素型建設機械において業界をリードしています。



SK200H稼働現場



展示会の様子

低燃費の追求とさらなる付加価値の創造

お客さまに浸透した「低燃費のコベルコ」というイメージをさらに確固たるものにするため、今後も低燃費システムの技術に磨きをかけていきます。作業量アップという建設機械に求められる進化の方向を維持しながらも低燃費を追い求めていくことは、燃料消費量の低減によるCO₂の削減、地球温暖化の防止のほか、お客さまのランニングコストの低減など、多くのメリットを生み出します。さらには低燃費に続く、付加価値を提供できるような技術開発にも力を入れていきます。



森林資源の
保全

日本の林業の発展と、さらなる環境負荷低減へ コベルコの林業機械が全力でサポート

林業就労者の高齢化と人手不足、国産材の競争力低下といった問題を抱える近年の林業において、作業の効率化・省人化、安全性の向上を図るべく高性能林業機械の普及が推進されています。コベルコ建機グループでも林業専用機械の開発に力を入れています。木材の伐採、造材、積み込み作業など林業特有の作業に応じて、性能を最大限に引き出すベースマシンの開発に努めています。また、森林・林業・環境機械展示実演会への出展や、独自開催の林業セミナーなど、コベルコ建機グループの林業分野を広くPRする取り組みも行っています。



造林作業を行うプロセッサ仕様機



ウッドグラブ仕様機

林業特有の作業工程に細やかに対応する

林業分野は木材資源の活用をはじめ、治山治水、環境保全などの面からも極めて重要な産業であり、継続的な発展が求められています。コベルコ建機グループでは、森林内や山間部での作業に適した形状や、林業ならではの独特の作業にきめ細かく対応できる性能を追求し、オプションなども充実させていきます。林業分野の発展のために、低燃費性をはじめとするコベルコの優位性をさらに磨きながら、お客さまのニーズに応える作業性能を発揮できる機械の開発に努めます。



グローバル
交流

事業活動とともに日本とアジアで CSR活動の輪を広げる

CSR活動を開始した2006年以前から、建設機械の寄贈や寄付を通して災害復興支援を行ってきました。活動は国内に留まらず、2005年のスマトラ沖大地震やパキスタン北部地震などの被災地に対しても油圧ショベルの無償供与や寄付を行っています。CSR活動が始まった当初は、特定のNPOに対する寄付など資金面での支援がほとんどでしたが、徐々に従業員が実際にに関わり、事業を展開する地域に根ざした現在の活動スタイルが確立されてきました。近年は日本だけでなく、中国や東南アジア、インドまで活動の輪が広がっています。



近隣小学校の工場見学(広島)



再建した小学校の落成式(中国・成都)

事業拡大に伴い よりグローバルな活動へ

2012年末CNH Global N.V.社との全世界包括提携解消に伴い、コベルコ建機グループは北米、南米、欧州、中近東、CIS、アフリカの6地域でも販売・サービスを再開することになりました。これまでは、日本を含むAPACエリア限定でCSR活動を展開していましたが、これからは近年の世界的な市場拡大に合わせ、全世界でCSR活動を展開していきます。私たちは、これからも世界中のお客さまから信頼される商品を提供するだけでなく、人と社会と未来のためにできることに取り組んでいきます。



子どもの
教育支援

ものづくりを支える人材の育成を願い 子どもに多彩な学びの場を提供

ものづくり企業の一員として、未来を担う子どもたちへの支援を積極的に展開しています。広島事業所では、広島大学と協働で毎年開催する中学生レスキューロボットコンテストや、小学生を対象とした理科の出前授業を実施。販売会社では、職場体験など子ども向けのイベントを開催してきました。また、中国では、四川大地震で倒壊した学校の再建や、地元小学校への支援など教育を支える幅広い活動を行っています。一人でも多くの子どもたちがものづくりに興味を持ち、将来ものづくりの現場で活躍してくれることを願っています。



中学生レスキューロボットコンテスト



理科の出前授業

世界を視野に、人材育成を目指す

中学生レスキューロボットコンテストの開催を機に、広島大学と協働でさまざまな教育支援活動の展開を目指しています。現在、取り組んでいるのがマレーシアでの森林保護活動支援。森林保護を活動のベースにしつつ、マレーシアに住む子どもたちを招いて、自国の自然のすばらしさと大切さを学ぶ学習の場を提供するのが私たちの目的です。日本、中国で展開する活動は今後も継続し、その経験やノウハウをもとに、マレーシアの子どもの教育・啓蒙活動をさらに充実させていきたいと考えています。

これまでの活動実績と今後の展開

豊かな森づくりへの取り組み

マレーシアにおける森林保護活動

森林の保護・育成とシヨベルには、深い関わりがあります。コベルコ建機グループは広島大学と連携し、マレーシアでの森林保護と子どもたちへの環境教育の活動を行っています。



「マレーシアの森林資源のすばらしさを肌で感じてもらい、守ることの大切さを未来を担う子どもたちに学んでもらいたい」と考え、コベルコ建機グループは、マレーシアの森林調査・保護活動をFRIM(マレーシア森林研究所)などともに行っている広島大学と連携し、2011年から森林保護活動支援を続けています。

この活動は、共同研究や中学生レスキューロボットコンテストで以前から交流のあった広島大学山本教授からの紹介をきっかけに、従業員がマレーシア半島部パソを訪問したことから始まりました。現地では、経済発展に伴い、プランテーション(ゴム、パームヤシ)への開墾などで原生熱帯林が急速に失われている現状を目の当たりにすることになりました。

それまでも修繕費の寄付や見学会の運営サポートを行っていましたが、マレー

シア現地法人の参加を機に本格的な支援をスタート。2012年9月には現地で植樹イベントを開催し、修復が進む地上10~20mに設置された観察路(キャノピウェイ)の見学も行いました。

シヨベルは木を伐採する機械ですが、適度な伐採を行い森全体の生長を促す「間伐」は、森林保護や地球温暖化

防止の重要な役割を担っています。コベルコ建機グループでは、高い環境性能を発揮する油圧シヨベルをベースとした林業機械の開発を進めるとともに、森林資源のすばらしさを肌で感じてもらう環境を整えることが、経済発展を続けながらも森林資源を守ることにつながると考え、今後も支援を続けていきます。

VOICE

事業とCSR活動とで社会に貢献する姿が誇り

H.S. Tuang (左)
KCMM ゼネラルマネージャー
K.T. Goh (右)
KCMM アドバイザー



マレーシアは2020年の先進国入りを目指し、農業中心経済から工業中心経済へと切り替えを進めてきました。特にジャングルの開発が盛んに行われた結果、多くの自然が破壊され、環境問題に発展しました。現在、政府はRe-planting(再植)を促進しています。このような背景の中、私たちはCSR活動の一環として広島大学を通じて Green Corridor Re-planting Programに参加しています。コベルコ建機グループが、環境にやさしい建設機械を開発・生産するだけでなく、マレーシアで森の再生にも努めていることは、マレーシア国民として大変誇りに思うと同時に、活動の継続を強く願っています。

森林・林業・環境機械展示実演会

コベルコ建機グループは、林業機械の開発に力を入れています。「森林・林業・環境機械展示実演会」には継続的に出展し、環境保護・林業発展に努めています。

一般社団法人林業機械化協会が主催する「森林・林業・環境機械展示実演会」に、コベルコ建機グループは2010年から出展しています。この展示会は全国育樹祭の記念行事として毎年秋に行われ、建設機械・林業機械メーカーが出展

し、毎年多くの来場者で賑わっています。

コベルコ建機グループは年々工夫を凝らして林業分野に対する取り組みをアピールしています。ブースには最新の高性能林業機械を展示し、実際の作業を模してデモンストレーションも実施。多くの人が足を止め、見入っていました。また昨年は、皇太子殿下の行啓を賜り、コベルコブースにお迎えする栄に浴しました。今後も、林業分野の発展のため、作業の効率化・省人化、安全性向上が図れる高性能林業機械の普及・推進に努めていきます。



神戸製鋼グループ「コベルコの森／ECOWAYの森」

神戸製鋼グループでは、荒廃した里山を借り受け、再生活動に取り組んでいます。森林保全や自然観察などの体験を通じ、参加者との交流も深まっています。

近年、大都市への人口集中により里山の荒廃が問題となっています。本来森林が持つ、土砂の流出を防ぐ防災機能や生物多様性といった大切な機能も失いかねません。神戸製鋼グループでは2011年より、森林の環境機能や防災機能の保全を目的とする「コベルコの森／ECOWAYの森」活動を実施しています。兵庫県三木市の里山放置林、約2haを「コベルコの森」、六甲山系油コブシ南側エリアを「ECOWAYの森」と名付け、年に数回、間伐・除伐・植樹といった森林保全活動や、自然観察会などを実施しています。毎回コベルコ建機グルー

プも積極的に参加し、森林の保全活動に汗を流しています。参加者には小学生や女性も多く、滅多にない「木を切る」「木を倒す」といった体験を通じ、参加者みんなが一体になれるイベントでもあります。

自然と人間、そして社会の共存を目指す

峯川 圭一郎
西日本コベルコ建機(株)
業務部 財務管理グループ



VOICE

「私が森に行って暮らそうと心に決めたのは、暮らしをつくるものと真正面から向き合いたいと心から望んだからだった」とヘンリー・ソローがウォールデン湖畔の森の中の丸太小屋で書いてからおおよそ160年経つが、我われはその事実と真正面から向き合っているだろうか。彼は「ロハス」(Lifestyles Of Health And Sustainability)の提唱者でもあるが、自然・人間・社会の3者の持続可能な共存関係の実現のために、企業が果たすべき役割は決して小さくない。



2012 企業活動・CSR活動ハイライト

コベルコ建機グループでは、CSR活動ポリシーに基づき、事業活動とCSR活動を相互に深く関連づけて取り組みを進めています。2012年度も事業展開に沿ったさまざまな活動を展開しました。

Highlight
1



欧米への再進出

CNH Global N.V.社との提携を解消し 自社販売でシェア拡大を目指す

株式会社神戸製鋼とコベルコ建機株式会社は、CNH Global N.V.社(CNH)とのグローバルアライアンス(全世界包括提携)に関して、2012年12月に提携契約を解消しました。10年間の提携による協力関係は、双方にそれぞれの意義がありましたが、今後はお互いの立場を尊重しながら全世界で独自の事業運営を展開していくことになります。

全世界包括提携の間は、CNHと販売エリアを分割していたため、コベルコ建機株式会社は日本・中国・東南アジア・豪州地域での事業強化、シェア拡大ができました。工場をタイ・中国(2工場)・インドに有し、2012年5月には広島市五日市に最新鋭工場の移転を実施、日本国内にあって全世界で戦える競争力を確立しました。また、グローバルエンジニアリングセンター(GEC)設立によって、顧客ニーズを吸い上げて最先端の技術開発・商品開発を行い、五日市工場をマザー工場として国

外の各工場に発信・フィードバックする体制を整えました。

CNHとの提携前は、全世界に対し独自にビジネス展開していたため、特に北米や南米ではコベルコブランドの評価は高く、再参入は大いに期待されています。これら地域に

も「低燃費」「低騒音」「GPS搭載」を基本とした最新モデルを即座に投入し、北米・欧州には最新の排ガス規制にも適合するモデルを順次投入しています。すでに確固たる存在感を確立しているアジアや豪州地域に加え、新しく再参入する地域を合わせた全世界で、高い環境性能を発揮するコベルコの油圧ショベルが活躍することを期待しています。



BAUMA2013

Highlight
2



「日本政策投資銀行(DBJ)環境格付」取得

融資における「環境格付」で 建設機械メーカー初の高評価

コベルコ建機株式会社は、株式会社日本政策投資銀行(DBJ)が実施する「環境格付」融資において、「環境への配慮に対する取り組みが先進的」という格付を2012年9月に建設機械メーカーで初めて取得しました。

DBJ環境格付融資とは、環境に配慮した企業経営の促進に向けた、世界初の「環境格付」による融資です。DBJ独自のスクリーニングシステム(格付システム)を使って企業の環境経営度を評価、優秀な企業を選定し、評価に応じて融資条件を設定するという、「環境格付」の専門手法を導入しています。

今回の評価では、

- (1)最先端の環境技術を基礎とする燃費性能に非常に優れた製品開発を通じ、製品使用段階の環境負荷低減を実現している。
 - (2)2012年5月稼働の五日市工場(広島県広島市)において、自然光取り込みによる照明使用の抑制や天井のダブル折板化による断熱性向上に伴う空調使用の抑制など「環境に配慮した生産工場」を実現している。
 - (3)工場の再編に併せ、物流を大幅に見直し、輸送段階での環境負荷低減に取り組んでいる。
- などの点を高く評価されました。

コベルコ建機グループは、油圧ショベル専門メーカーとして、開発・生産はもとより、販売・リース・教習所など、油圧ショベル関連事業を多角的に展開しています。お客さまからは「低騒音・低燃費のコベルコ」との評価をいただいておりますが、さらに高い環境性能を発揮する商品の開発や、生産における環境負荷低減に向かって、最先端技術を使って積極的に取り組み、人と地球にやさしい循環型社会創出を目指します。



当社は、平成24年9月日本政策投資銀行(DBJ)より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが先進的」と評価されました。

Highlight
3



GEC・五日市工場本格稼働スタート

本格稼働した五日市工場で 社員と家族を招き、感謝祭を開催



五日市工場オープニング感謝祭

広島市五日市地区の敷地に建設を進めてきた五日市工場が2012年5月に完成し、本格稼働をスタートしました。最新鋭の設備や創意工夫を取り入れ、従業員の安全性と徹底的な効率化を追求した五日市工場は、

世界最高水準の生産性と競争力の実現を目指し、ものづくり力を深化させていく重要な拠点となります。また、グローバルな事業展開に向け、グループ全体の生産および開発の最適化を担ったグローバルエンジニアリングセンター(GEC)も併せて始動しました。GECは、開発・ものづくり・調達が一体となって、グローバルなマーケット事情を集約し、最適な体制を世界の生産拠点にフィードバックしていくという、ものづくりの心臓部の役割を果たす意欲的な組織になります。新体制で稼働開始した五日市工場は、祇園工場の中型油圧ショベルと沼田工場の大形油圧ショベルの生産機能を集約させたことにより、従業員も大幅に増えました。

2012年11月には、五日市工場・GEC本格稼働開始の記念と、従業員が働く新しい職場をご家族にも知っていただくために、「五日市工場オープニング感謝祭」を開催しました。当日は、ショベル写真撮影や子どもじゃんけん大会、部署対抗駅伝などのさまざまなイベントを行い、あいにくの雨模様にもかかわらず総勢約1,500名が参加し大盛況となりました。

これからも従業員一人ひとりが安全で、気持ちよく働ける職場づくりを目指して、積極的に従業員とその家族を対象としたイベントを開催していきます。

Highlight
4



大垣工場リニューアル

リニューアルした大垣工場の従業員が 地域交流で大活躍

大垣工場は2012年1月に、リードタイム短縮・生産性向上を目的とした新たな組立設備を導入し、リニューアルしました。2013年1月からは第2ステップとして、倉庫棟の建設をはじめ構内物流改善や製缶ラインの大幅なレイアウト見直しも行い、「世界一のミニショベル工場」を目指して、さらなる改善を進めています。活動は若手中心のチームを結成し進めてきましたが、生産能力が向上しただけでなく、家族を招いたバーベキューや工場見学会などに発展し、工場全体の活性化につながっています。

また、大垣工場は2012年10月、岐阜県大垣市で毎年開催される「大垣十万石まつり」に初めて参加しました。350年以上の歴史を持つ大垣三大祭りのひとつで、今回は株式会社神戸製鋼と共同で、合わせて約130名の従業員が参加しました。地域の方々をはじめ、神戸製鋼グループとしても親睦を図ることができ、有意義な時間となりました。地域に根ざした活動としてこれからも積極的に参加していきます。



大垣十万石まつり

VOICE

工場での合言葉を CSR活動にも生かして

松浪 俊治
コベルコ建機(株)生産本部大垣事業所 生産管理室長



新倉庫棟の完成を機に3月より、納入・作業効率・在庫精度などの向上に向け改善を進めています。日々、「私たちはお客さまの気持ちになってミニショベルをつくります」を合言葉に取り組んでいますが、CSR活動においても地域の皆さまの気持ちになって取り組むことを心がけています。これからも事業活動・CSR活動の両輪で、お客さまや地域の皆さまに喜んでいただける活動を続けていきたいと思っています。

地球のみどりのために

地球環境を守るために、環境にやさしい製品づくりはもちろんのこと、製造過程を含むライフサイクル全体で環境に配慮した事業活動を進めています。

▶ 塗着効率の向上

油圧ショベルの塗料には、揮発性有機化合物(VOC)が含まれ、塗装時の揮発・飛散は大気汚染の原因になります。これまでも塗装ブースからの排気では、有害物質を専用フィルターなどで可能な限り除去していましたが、環境負荷のさらなる低減と塗装品質の向上を目指し、塗着効率の改善に取り組んできました。

2012年に移転した五日市工場では、グローバルエンジニアリングセンター(GEC)と協力し、最先端機器(エアラップ静電ハンドガン)を導入したうえ、最適塗着条件を徹底的に調査・検討を行い、製造業で最も高いレベルといわれる自動車業界同等の塗着技術を確立しました。結果、一部の塗着工程では、従来比塗着効率2倍を達成。大気中に出るVOCの量が半減したうえ、塗料の使用量そのものが大幅に減少して、塗料缶などの廃棄物も大幅に減りました。現在は、対象となる塗着工程を増やすとともに、技術を国内外の他工場へ展開することに取り組んでいます。



▶ Smart & Clean!

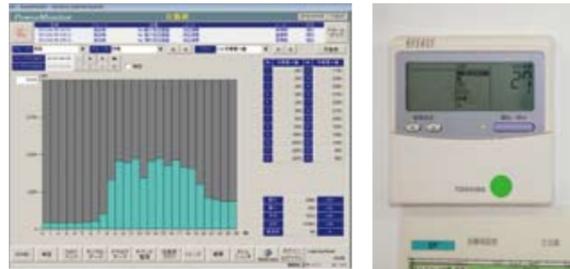
五日市工場では、「Smart & Clean!」をテーマに、品質向上や生産性向上を目指した活動を展開しています。職場の汚れは、製品の品質を左右するだけでなく、安全性・生産性・環境保全などあらゆることに影響すると考え、組立ライン上に粉塵量を測定できるクリーンメーターを設置。管理者だけでなく組立作業に関わる全員がタイムリーに工場内の清掃度をチェックできるようにしています。新工場稼働開始から約1年が経過しましたが、工場内の清掃度は業界トップレベルといえます。今後もクリーンメーターによるチェックを継続し、クリーンな作業環境を維持することに努めています。



▶ 電力集中管理による省エネ活動

五日市工場では省エネ活動の一環として、生産部門だけでなく敷地内全ての施設での電力使用量を監視する仕組みを導入しています。建屋や設備ごとに時系列で使用量を見える化し、定期的に集計することで、日時・生産量・気温に対し適切に電力が使われているかをチェックしています。照明や設備の電源切り忘れが頻繁におこる場所ではタイマーの設置などで改善を図っています。また、2012年12月からはGEC棟にて空調の集中管理も開始。日当たりやパソコン台数、作業内容により設定温度はさまざまですが、その場所の室温が最適になるように集中管理しています。

まだ工場移転後1年しか経っていないため、季節や生産量を考慮した活動効果は算出できていませんが、年間約122万kWhの節電効果を見込んでいます。継続的に取り組むことで、より大きな効果を挙げると認識し、電力不足が起りやすい夏季だけでなく、1年を通じて活動を推進しています。



▶ 公共交通機関による通勤

五日市工場では、工場移転を機に公共交通機関での通勤を推奨しています。五日市駅からの専用巡回バスや、沼田工場駐車場を利用したパークアンドライドなど、可能な限り従業員の負担にならないよう努めています。結果、多数の従業員が公共交通機関や巡回バスを利用し、CO₂排出の抑制に貢献しています。

▶ 工場周辺環境の保全

杭州神鋼建設機械有限公司(中国・杭州)では、工場周辺の住宅や小学校、幼稚園への騒音・臭気対策を行っています。試運転場には防音壁を設置し、塗装ブースの排気口には浄化装置を取り付け、可能な限りの環境保全に努めています。今後も、工場近隣で生活している住民の方々への配慮を忘れず、日々生産に励んでいきます。



▶ 物流改善によるCO₂削減

コベルコ建機グループは2009年10月に特定輸出申告制度を導入すると同時に、物流拠点を神戸港から五日市工場近隣の五日市港へ移しました。輸出許可や税関審査が迅速になった上、生産工場から輸出貨物船までの輸送が円滑になったことで出荷がスピーディーになり、1回の輸送でより多くの製品を輸出できるようになりました。導入した当初は、主に中国向けを対象としていましたが、近年では東南アジアやアメリカへも本制度を活用して出荷しており、対象範囲が広がっています。これは、製品の到着をお待ちいただいている世界中のお客さまへ、より迅速にお届けできるようになったことを意味しています。

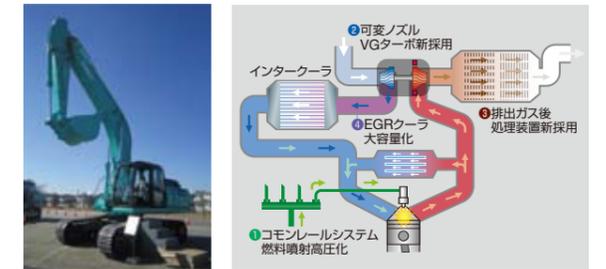
物流改善により、出荷リードタイムの短縮や物流コストの低減はもとより、大幅なCO₂の削減を実現しています。2012年度は、原油換算で年間243キログラム※(ドラム缶1,215本分)の省エネ効果が出ています。 ※五日市工場出荷ベースによる当社試算値



▶ 新型低燃費ショベルの開発

排出ガスを規制するオフロード法が2006年に制定され、コベルコ建機グループは国内建機メーカー初の認定を受けました。5年後、さらに規制が強化された2011年基準がスタート。これまでよりPM(粒子状物質)を約90%削減する厳しい規制となりましたが、燃焼効率を大幅に改善した新型エンジンを搭載し、PMを捕集する排ガス後処理装置の装着など、多くの新技術を採用した新モデルを開発、2013年4月より販売開始しました。

新モデルは規制適合だけでなく、エンジンの燃焼効率アップ、油圧システムの圧力損失の見直しなどにより、低燃費ショベルとして好評を博した前モデルよりもさらなる燃費低減とCO₂の削減を実現。作業休止時にエンジンが自動停止するオートアイドルストップ機能などの燃費低減技術も継続的に採用し、新型キャブの搭載による快適性や安全性の向上を図ることで、環境にもユーザーにもやさしい機械となりました。



DATA 環境数値

▶ 事業活動に伴う排出量

コベルコ建機(株)広島事業所
主要製品:建設機械、運搬機械、自動車、自動車関連機械器具・部品

■大気			
項目	設備	規制値	実測値
NOx	乾燥炉	230	7
ばいじん	乾燥炉	0.2	0.004未満
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水質		
項目	規制値	実測値(平均値)
COD	該当なし	—
SS	該当なし	—
油分	35	12.8
ダイオキシン類	該当なし	—

物質	排出量						移動量	主な使用工程、使用目的など
	大気	公共水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外		
キシレン	147,782	0	0	0	0	30,063	塗装	
トルエン	13,644	0	0	0	0	9,269	塗装	
エチルベンゼン	46,165	0	0	0	0	3,544	塗装	

■大気データ
※規制値:大気汚染防止法、旧条例、ダイオキシン類対策特別措置法
※単位:NOxはppm、ばいじんはmg/Nm³、ダイオキシン類はng-TEQ/Nm³
※規制値は、対象施設ごとに決められています。
※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。
硫黄酸化物、カドミウム、塩素、塩化水素、フッ素、フッ化水素、およびフッ化珪素、鉛、ベンゼン、トリクロロエチレン、ダイオキシン
■水質データ
※規制値:水質汚濁防止法、旧条例、ダイオキシン類対策特別措置法もしくは下水道条例、協定値

詳しい環境数値は、WEBをご覧ください。
コベルコ建機 CSR 検索
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/environment/index.html>

コベルコ建機(株)大垣事業所
主要製品:建設機械及び部品

■大気			
項目	設備	規制値	実測値
NOx	該当なし	該当なし	—
ばいじん	該当なし	該当なし	—
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水質		
項目	規制値	実測値(平均値)
COD	3.0	0.95
SS	40	1.0未満
油分	5	1.0未満
ダイオキシン類	該当なし	—

物質	排出量						移動量	主な使用工程、使用目的など
	大気	公共水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外		
キシレン	33,977	0	0	0	0	7,934	塗装	
トルエン	23,429	0	0	0	0	5,519	塗装	
エチルベンゼン	27,680	0	0	0	0	6,492	塗装	

※単位:CODはkg/ℓ、SS:油分はmg/ℓ、ダイオキシン類はpg-TEQ/ℓ
※ND:分析定量限界値以下(検出されない)
※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。
pH、BOD、全窒素、全リン、フェノール類、総クロム、溶解性鉄、溶解性マンガン、フッ素、銅、亜鉛、カドミウム、総シアン、有機リン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チラウム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン
■化学物質
※単位:kg

ステークホルダーとの関わり

支えてくれる人とずっと

製品づくりの安全・安心を高度に進化させるとともに、多方面からのサポート体制を整えることで、ステークホルダーからの期待と信頼に応えていきます。



▶ 資源リサイクル会

毎年5月に東京ビッグサイトで開催されるNEW環境展の期間中に、リサイクル業界の方々を招き、コベルコ資源リサイクル会を開催しています。毎年、参加者は500名を超え、各業界に通じる講師を招いての最新動向の講演をはじめ、環境機械の新商品紹介などを行い、コベルコ建機グループからの情報発信の場としています。その後に行われる懇親会では、参加者の方から直接多くの意見をいただき、メーカーとお客さまとの意見交換の場となっています。当日は、参加者同士でも親睦を深め、情報交換する姿が多くみられ、コベルコ建機グループだけでなく、リサイクル業界の活性化にもつながっています。



関係企業との調和

コミュニケーションを通じ 良好なつながりと信頼を構築

取引先をはじめとする関係企業と情報を共有し、相互理解を深めるため、多彩なコミュニケーションの場を設けています。信頼を高め、互いの企業価値の向上と発展を目指しています。

▶ 生産連絡会

部品の供給元である取引先各社に集まっていたり、年に2回、生産連絡会を開催しています。毎回多くの企業の方に積極的に出席いただき、130社/300名が一堂に会する規模になります。本会では、コベルコ建機グループの置かれる事業環境と見直し、会社方針・各部門方針などを説明し、情報の共有化を図るとともに、各種協力をお願いをしています。また、上期の生産連絡会ではコベルコクレーン株式会社と共催し、特に「品質」「納期」「原価低減」において優れた取引先企業の皆さまに感謝の意を表し、両社から表彰をさせていただいています。生産連絡会後は懇親会を催し、コベルコ建機グループの経営陣とも親睦を深め、率直な意見をいただく場にもなっています。



▶ ディーラーミーティング

世界各国でコベルコ建機グループのショベルを販売いただいているディーラーとの交流の場として、ディーラーミーティングを定期的に開催しています。マーケット概況、商品開発や品質向上などコベルコ建機グループの取り組みと展望を発信し、意見交換を行うことで、コベルコファミリーとしての連携強化を図る貴重な機会となっています。昨年は「KOBELCO-APAC DISTRIBUTORS MEETING 2012」と題して、五日市新工場のお披露目を兼ねて開催。韓国・東南アジア・オーストラリアなど14カ国のAPACエリア代理店に加え、シンガポール、オーストラリア、タイ、インドの当社現地法人を含めて総勢33社、115名が参加しました。



職場づくり

安心・快適な労働を目指し 職場環境を整備する

従業員が心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりを進めています。活動の内容は、生産工場における安全衛生活動や従業員の体力づくり、メンタルヘルスケアなど、職種や地域の特性に合わせて多彩に展開しています。すぐに大きな効果が得られる活動ばかりではありませんが、少しずつ着実に推進することが最も重要なことだと考え、継続して行っています。

▶ 従業員の健康維持増進

五日市工場では、従業員の健康維持増進を目的とした、さまざまな取り組みを行っています。2011年度に「体力づくり優秀組織表彰 文部科学大臣賞」を受賞した運動指導士による腰痛予防体操の継続はもちろん、リラクゼーションエクササイズを工場敷地内で毎週開催し、気軽に参加できる体力づくりを推進しています。毎月のべ150名の従業員が参加しています。



▶ メンタルヘルスケアの取り組み

「健康いきいき職場づくり計画」の一環として、職場単位、特に新入社員・入社2年目および管理職を対象にメンタルヘルス教育を行っています。入社2年目研修では、問題解決法をグループ学習することで得られるストレス対処法により、コミュニケーション促進に大いに役立っています。また、退職者が円滑に職場復帰できるよう、職場・人事・産業保健スタッフ（産業医含む）との支援体制を整え、働きやすい職場づくりを推進し、心と体の健康と自己管理を支援しています。

▶ 避難訓練

五日市工場移転後初となる、大規模な避難訓練を2012年8月に実施しました。グローバルエンジニアリングセンター（GEC）内の出火を想定し、GEC棟に在籍する約630名が対象、限られた避難経路の中で、事前に計画された避難誘導組織および避難誘導員が中心となって迅速に避難することが課題でした。結果は、約9分30秒で全員が避難完了。協力いただいた佐伯消防署の方々からは「大きな混雑もなくスムーズな避難が行われていた」と評価をいただきました。今後は、出火場所を変え、避難経路を一部塞ぐなど、より実践的な訓練を定期的に行い、防災面からも安全な職場づくりを実践していきます。



人づくり

人を育て、環境を整え 社員からも愛される企業へ

会社にとって貴重な財産である社員一人ひとりが、個人の能力を最大限に発揮できるように、グローバルな人材育成に取り組むとともに、多様な人材が互いに価値を尊重し合い、安心して働けるようなさまざまな仕組みづくりを整えています。重要なステークホルダーのひとつである社員からの信頼向上に努め、今後も快適な環境づくりに取り組んでいきます。

▶ 社員研修制度の充実

コベルコ建機株式会社では入社後、新入社員研修を実施しています。社会人として基本となるビジネスマナーから油圧ショベルの免許取得まで行い、実際に油圧ショベルに触れて動かすことで自社製品への知識と愛着を深めています。この時期は社会人として慣れない環境の中で、不安などを抱える時期でもあります。同期入社の仲間とともに切磋琢磨して過ごすことで結束力を高めています。結果として若手社員の離職率が極めて低く、社員が長く働きやすい環境となっています。

各階層においても、集合研修をはじめ、「eラーニング」を活用したコンプライアンスやベース知識習得のための教育や、「社内TOEIC受験制度」「語学研修」など事業のグローバル化に対応した教育も実施しています。2012年度には、日本国内だけでなく、東南アジアなどの海外現地法人に駐在する中堅・若手スタッフを対象に「海外赴任者研修」を実施。文化や考え方が異なる現地スタッフと協働するために必要な「異文化対応力」や現地管理者としての「マネジメント力」の向上を目指し、各国から集まった参加者が議論を交わしました。



▶ 仕事と生活の両立支援施策—育児・介護—

「ライフワーク・バランス」の一環として2012年度から、子育て世代への支援施策の検討のため、労働組合との話し合いの場を継続的に設けてきました。その結果、2013年度よりカフェテリアプランの補助対象メニューの追加や補助率の引き上げなどを実施することになりました。具体的には、育児用品購入費補助の対象品目を拡充し、子どもの教育費や病児保育費の補助などをメニューに追加、小学校までの子育て支援を強化するために該当するメニューの単価をアップさせました。平行して、2012年4月に育児と仕事の両立支援ホームページ「Libra」を全面的にリニューアル。従業員が育児に関する情報をより分かりやすく取得できるようになりました。

また、全ての従業員にとって、より働きやすい職場を目指して、有給一斉取得日を全社展開することや、年間休日数日の引き上げも2013年度より実施しています。

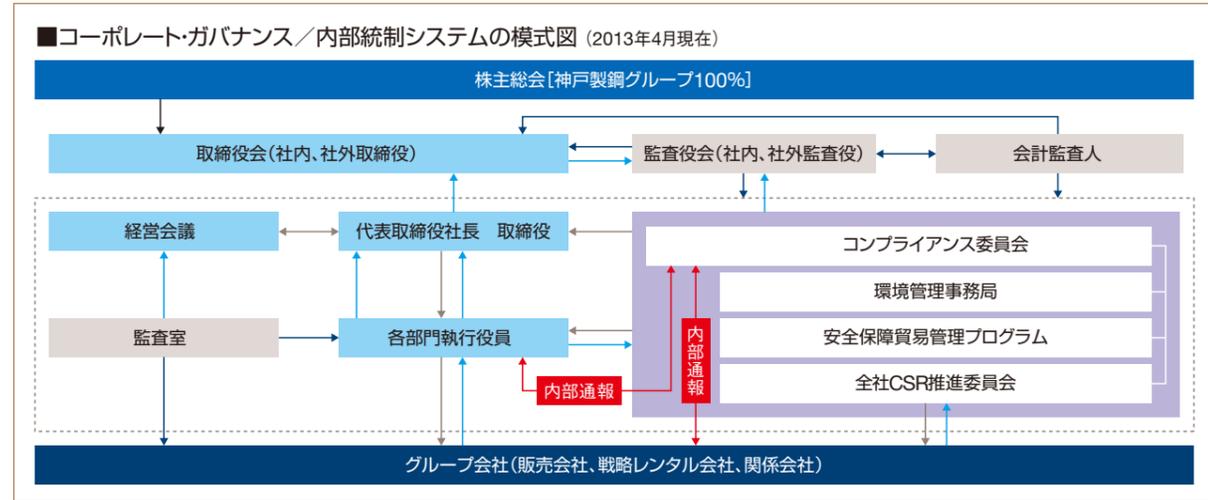
コーポレートガバナンス／コンプライアンス

企業の社会的な役割と責任を果たすとともに、企業価値を最大限に高めるため、グループ全体でのガバナンス体制を整え、法令遵守の徹底を図っています。

▶ コーポレートガバナンス体制

コベルコ建機グループは、コーポレートガバナンス体制を構築し、事業を展開する国や地域での法令遵守はもとより、社会常識を逸脱することがないよう、コンプライアンスの徹底を図っています。

また、企業としての浄化作用を促進し、健全な企業風土を維持するための仕組みとして、「内部通報システム」を設け、法令・企業倫理・行動基準に違反することによるリスクの顕在化や、早期に問題を把握し対策を講じることに努めています。



▶ コンプライアンスへの取り組み

コベルコ建機グループは、企業倫理と企業の社会的責任が強く必要とされていることを認識し、企業経営上の法令遵守はもちろんのこと、コンプライアンス活動を継続して推進しています。活動の柱として、基本方針とコンプライアンス5原則を掲げ、社会的責任を果たすよう努めています。

▶ コンプライアンス基本方針

■基本方針

- ① 私達はあらゆる企業活動において関係法令及びこの行動規準を含む社内諸規定を遵守し、企業倫理と社会常識から逸脱しないよう行動します。
- ② 私達はあらゆる企業活動において人権を尊重し、人種、性別、職業、年齢、国籍、社会的地位、宗教、身体的障害、言語、出身地等に対する差別を行いません。
- ③ 私達はあらゆる企業活動において当社と利害関係にある全ての人達との間で公正な取引を行います。
- ④ 私達は常に高い倫理観に基づき行動し、反社会的な行為や会社の名誉や信用を損なう行為を一切行いません。
- ⑤ 私達は常に安全性が高く、地球環境の保全に十分配慮した商品を提供し、併せて顧客に喜ばれるサービスや必要な情報をタイムリーに提供します。

▶ コンプライアンス委員会

コベルコ建機グループでは、企業活動における法令や倫理の遵守活動を高めるため、取締役会から独立した機関として、コベルコ建機グループのコンプライアンス委員会を設置しています。より公平で透明性の高い組織にするため、2名の社外委員を含めています。

TOPICS 危機管理演習

危機管理規程を整備し 状況に合わせた幅広い対応を図る

コベルコ建機グループでは、緊急時の基本動作の体得、および危機管理プログラムの正しい作動を確認するため、危機管理規程に則った演習を行っています。主に国内販売会社を対象に、品質保証部主催で2006年に開始して以来、毎年演習を重ね、危機管理能力の向上に努めています。

企画・設計の段階から製品の安全性を追求することにより、トラブル・事故の未然防止を図っていますが、市場での想定を超える事態により、事故に至ることもありえます。そのため、危機管理演習を通じて、経営トップへの情報の迅速な伝達、事故への的確な対応など、緊急時の基本動作を訓練し、不測の事態に備え万全を期しています。



コベルコ建機グループの概要

●会社概要

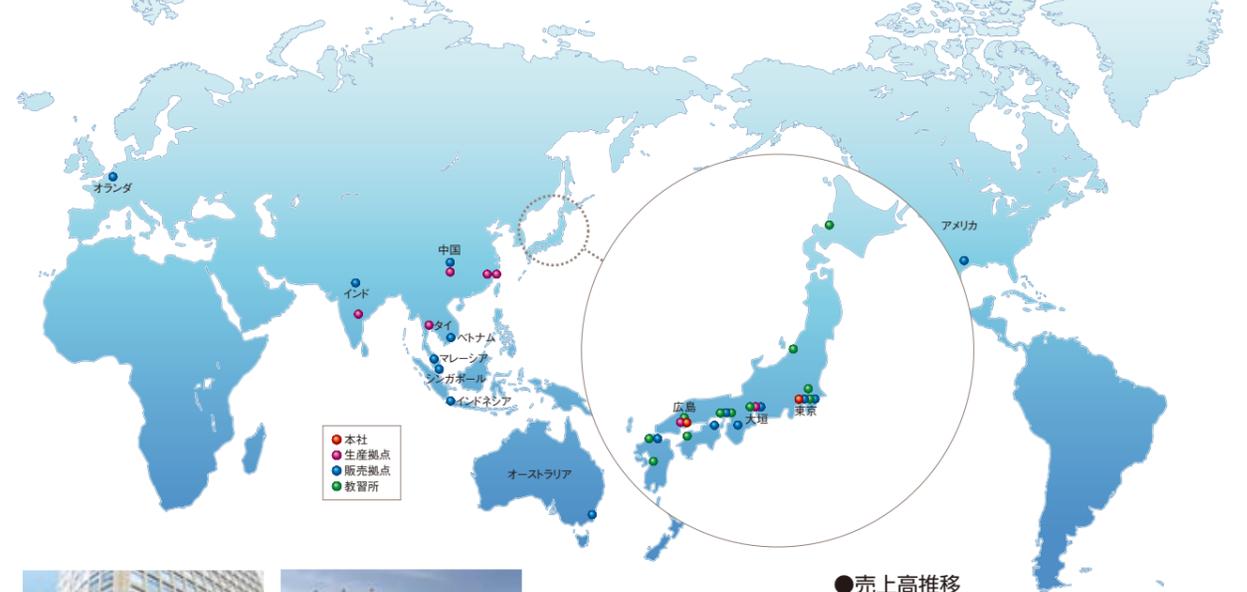
会社名 コベルコ建機株式会社
 英文社名 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO.,LTD.
 創立 1999年(平成11年)10月1日
 事業所所在地 □東京本社
 〒141-8626 東京都品川区東五反田二丁目17番1号
 TEL:03-5789-2111
 □広島本社(広島事業所)
 〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号
 TEL:082-943-5321
 □大垣事業所
 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7
 TEL:0584-89-3104
 URL http://www.kobelco-kenki.co.jp
 資本金 160億円
 代表取締役社長 藤岡 純(ふじおかじゆん)
 事業内容 建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
 従業員数 1,019名(グループトータル6,403名)[2013年4月1日現在]
 売上高 2,678億円(連結)[2012年度]

●国内法人

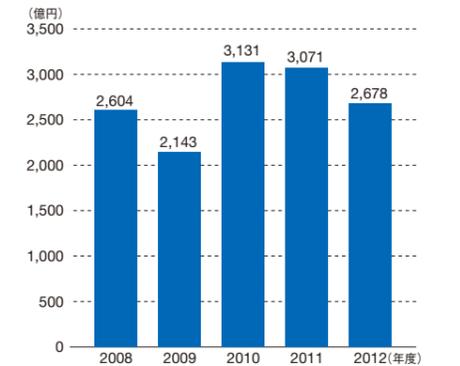
東日本コベルコ建機(株)、西日本コベルコ建機(株)
 コベルコ建機エンジニアリング(株)、ユタニサービスサプライ(株)
 コベルコ建機インターナショナルトレーディング(株)、コベルコ教育所(株)
 コベルコ豊田通商建機ホールディングアジア(株)、中村リース(株)
 トーヨースキウエ(株)、(株)ササイ、(株)ワイズヨシハラ、(株)常南

●海外法人

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.(アメリカ)
 成都神鋼工程機械(集団)有限公司(中国)、成都神鋼建設機械有限公司(中国)
 成都神鋼建機融資租賃有限公司(中国)、杭州神鋼建設機械有限公司(中国)
 神鋼建機精密機械(杭州)有限公司(中国)
 THAI KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY LTD.(タイ)
 KOBELCO INTERNATIONAL (S) CO., PTE. LTD.(シンガポール)
 RICON PRIVATE LIMITED(シンガポール)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MALAYSIA SDN BHD(マレーシア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY VIETNAM CO., LTD.(ベトナム)
 PT. DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA(インドネシア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY. LTD.(オーストラリア)
 KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD.(インド)



●売上高推移



編集後記

活動を通じ、喜びと誇りを共有したい

全社CSR委員会委員長 中田 雅彦

広島大学と共同で実施しているマレーシアの森林保護活動。活動に参加してくれた現地の従業員から「コベルコの社員であることを誇りに思う」と感謝のメールをいただいた。CSR活動の輪が広がり、コベルコに集う誇りを確認しあえるようになることは、心の底から喜ばしいことだ。感謝。

CSR活動は人と人をつなぐ架け橋!

CSR推進グループ 岩本 篤

CSR活動を通じて今年もたくさんの人と出会いました。一緒に花植えをしたボランティアの女性や、展示会に遊びにきていた子ども、回収したキャップを届けている地元の大学生…。まさにCSR活動は「人」と「人」をつなぐ架け橋だと改めて実感しました。出会いを大切にこれからも活動をしていきたいです。

地域の方々との関わり合いで感じた温かさ

CSR推進グループ 渡邊 拓馬

交流イベントでは、展示ショベルに乗って目を輝かせて喜ぶ子どもたち、地元のコベルコ建機グループの会社があることを初めて知り、熱心に話を聞いてくださる年配の方など、地域の方々の温かさに触れる良い機会になりました。今後も地域に根付いた活動を通して会社のことをもっと知っていただきたいと思っています。